

年間第 8 主日の説教

金 大烈 神父 2011 年 2 月 27 日 (日)

《私はあなたを忘れる事は決してない》

主の平和。

まず、皆様と考えた方が良いのではないかと思う事をお話したいと思います。

皆様の目にも、この世の中が荒れて来ている事を感じられますよね。地震、火山の爆発、さらに暴力等人間として見たくない事変が世界各地に起こっています。その世界の流れを見ながら私なりに考えてみました。それは人間としての反省にもなります。昔から、西洋も東洋も“生き方の為の精神”がありました。その精神とは天を畏れ敬う事でした。地に感謝する心を保つ事でした。

しかし、この心を人々が段々忘れ失って行きました。そういう事によって、天と地の間に生きている生き物に対しての尊重する心さえ失ってしまいました。何が大事なものが、何が無駄なものを識別する心も失ってしまいました。これは、宗教とか文化とか関係なしに、天を畏れ敬う心、地に感謝する心を持つ人が少しでも増えていったら、“この世の中はどうか取り戻せる”という希望を私たちが持てる事になるのだと思います。ということは、悲しい事かも知れませんが、“天が怖くて罪を犯さない”という心でも持つ事が出来れば、もっと良い世界を子供たちに、この世の中についてあまり分からない子供たちにふさわしい世界を残していけるのではないかと思います。

一番心配になるのは、子供たちに残す世界は何の世界かという事です。ある意味で私たちは色々影響し合いながらこの世の中を生きて来たのですが、今 20 歳にもなっていないその子供たちに、私たちは何の世界を残していけるのか、それを考えると胸が苦しくなってしまう事があります。多分皆様も同じだと思います。そういう意味で人間として、天を畏れ敬う、地に感謝する心が何よりも全ての人間にとって、基本的な心である事をもう一度考えてみて頂きたいと思います。

福音に入ります。今日の福音（マタイ 6・24-24）は二つのメッセージを持っています。

今日の第一朗読（イザヤ 49・14-15）は短かったのですが、皆様の耳にはちゃんと届いたでしょうか。要約すると、シオンは「神様が自分たちを見捨てられた」と言います。しかし預言者イザヤはこの様に言っています。「そうではない、母がその乳飲み子を忘れる事が出来るのか。母親がその子を憐れまないであろうか。もし、その母親がその乳飲み子を忘れても、神様はあなた方を絶対に忘れる事はない」。結構意味深い話です。もし、私たちがこの様な心で生きる事が出来れば、自分の前に何事が起こっても、どんな難しさにぶつかっても、多分私たちは乗り越えられると思います。

今日の福音は何の話でしょうか。『何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようか心配するな。思い悩むな。それよりも神様の国とその義を求めなさい』

どういう意味でしょうか。私たちがお金を儲ける為に働くのが罪になるのでしょうか。いいえ、そうではありません。一つのメッセージがあります。「あなた方が働くのは当たり前であり、そうで

はない人々はもっと罪に陥る。富はあなた方の為に用意された神様の贈り物である。だから一生懸命に勤勉に働いて自分の手に入れるのが相応しい。しかし、それより先にまず考えなければならない事は、“神様のみ国、神様の義”である」という事です。

皆様はどの様になさっているのでしょうか。何事があってもそれをする前にまず神様の事を考えるのでしょうか。何かを決定する前に神様はどう思われるのか、神様が私に望んでいるのは何なのか、どの様な決定が神様のみ旨に叶うのかを考えられるのでしょうか。そしてどの様な結果が出て、その結果に対して信仰的に受け入れているのでしょうか。良い結果が出ればそれは嬉しい事です。しかし、この人生に於いていつも良い結果が出るはずはありません。もし失敗した結果が出たらどうしますか。その時にも“神様のみ旨をはかろうと集中しなさい、感謝しなさい”というメッセージが今日の1つ目のメッセージです。

何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかやはり私たちは心配します。それを心配しなければこの世の中を生きていけません。しかし、今日の第一朗読で読まれた神様のみ心、『もしおまえを生んだ母がお前を忘れても、私は決しておまえの事を忘れる事はない』という心を私たちがはっきり感じられたら、何事があっても「あなたのみ旨に従います」「何があっても私の為に一番相応しい道を開いて下さる事を信じます」という心が出来るのではないかと思います。

2番目のメッセージは何でしょうか。“神様の国と神様の義を求めなさい” という意味でしょうか。簡単です。本当に私たちが幸せになりたかったら、私たちが私たちにらしくという希望があったら、何よりも神様の国と神様の義を求めなければならないのです。人間が人類の歴史の中で、[これが幸せの道だ] と思い、それを一生懸命やって来た結果は何でしょうか。いつも失敗でした。いつもバベルの塔の様に間違えた幻です。それでは何が一番必要でしょうか。それは、特に信者である私たちは、神様が考えられているそのみ心を思い、またそのとおりになろうと頑張らなければならないのです。

神様の国、神様の義は何でしょうか。“変わってしまうものに命を懸けるな” という事です。“失敗しても変わらないものに失敗しなさい” という事です。いつも変わってしまう、その様なものに思い悩む必要はないという事でしょう。結局 “あなた方はどこまで流されるのか。私たちが行く道は限られているのではないか。定まっているのではないか。何故それを忘れているのか。それをいつも思い出し、何をするか、何を考えるか、何を決定するかを考えなさい” という言葉ではないのでしょうか。神様の国、神様の義は実際に私たちの幸せと直結されています。直接に連結されています。それが、私たちが求めなければならないまことの真理の道、幸せの道である事を今日の福音でもう一度考えてみましょう。

皆様も私も生きるための真理は一つです。それは、神様が『これは良かった』と思われる事を私たちが自然にしなければ、何事があっても、何を手に入れても私たちは幸せという心とはかけ離れてしまう事を意識しましょう。

もう一度思い浮かべましょう。

『たとえ母親が生んだ子供を忘れようとも、私はあなたを忘れる事は決してない』

ありがとうございました。